

<b>3級商業簿記</b>		<b>講義</b>	<b>准教授 岩下 尚義</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>会計ファイナンスコースの 選択必修科目 経営・経済コースの専門 選択科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23012102</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

簿記とは、会計学の中で「帳簿記録」の作成基準や作成方法を学ぶ科目である。簿記の計算を身につけることで、ビジネスの言語とも呼ばれる「会計」の知識をより実践的なものにできる。本授業は、一般的な簿記の計算や財務諸表の作成方法を学ぶことで、日商簿記検定試験3級の学習内容をカバーする。また、単に検定の合格を目指すのではなく、しっかりと意味を理解したうえでの簿記力を養成することで、3級だけでなく今後の検定試験や会計の世界において躓くことがない「土台」を築くことを目標とする。

### 2. 授業の進め方

講義形式で行う。授業は、インプット（講義）とアウトプット（演習）をバランスよく実施する。インプットでは、テキストやその内容をまとめたレジュメなどを用いて説明する。アウトプットは、テキストに収録された問題集なども用いるため、必ずテキストを購入し毎回持参すること。授業では、日商簿記検定3級の過去問題レベルの問題も頻繁に紹介し、知識だけでなく検定試験対策も同時に実施する。

### 3. 授業計画

1. 簿記の基礎	9. 決算整理②（減価償却）
2. 商品売買に関する仕訳	10. 純資産、税金に関する仕訳
3. 現金、預金に関する仕訳	11. 決算整理③（繰延処理、見越処理）
4. 小口現金、売掛債権に関する仕訳	12. 総勘定元帳と試算表の作成
5. 貸付金・借入金に関する仕訳	13. 精算表と財務諸表の作成
6. その他の債権・債務に関する仕訳	14. 帳簿の締め切り
7. その他の費用に関する仕訳	15. まとめ（検定試験対策講義）
8. 決算整理①（棚卸、貸倒引当金）	

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読むことが望ましい。また、復習はテキストを読むだけではなく、テキストの問題を中心に解くことが大切である。これらの準備学修には1時間程度が必要である。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定3級の合格に必要な計算問題や仕訳について毎回簡単なミニテストを実施し解説する。定期試験実施の際は、解答のポイントや出題意図を（試験）終了直後に配布する。

### 6. 授業における学修の到達目標

簿記の基本的な仕組みを理解した上で、日商簿記検定試験3級に合格できるレベルに到達することを目標とする。

### 7. 成績評価の方法・基準

平常点50%（授業への取組み姿勢）および定期試験の結果50%の割合で成績評価を行う。

### 8. テキスト・参考文献

テキストは、滝澤ななみ著（2026）『2026年度版 スッキリわかる 日商簿記3級』TAC出版を使用する。なお、本テキストは改訂される可能性があるが、授業では最新版を使用する。

#### **9. 受講上の留意事項**

受講にあたって、簿記や会計の知識は問わない。授業は積み上げのため、毎回出席することが望ましい。また、授業では必ず電卓を持参すること。

#### **10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は、税理士としての実務経験を活かして指導する。

#### **11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。